

宮城県上工下水一体官民連携運営事業
(みやぎ型管理運営方式)

令和7年度 半期業務報告



みずむすび

令和8年2月3日

株式会社みずむすびマネジメントみやぎ

令和7年度上半期・報告事項

1. 維持管理業務

- ① 運転管理・水質管理
- ② 主なトラブルと対応

2. 改築業務

- ① 完工工事
- ② 発注（設計・工事）

3. 経営管理業務

- ① 財務報告（上半期）
- ② 研修・教育
- ③ 広報活動
- ④ その他（地域連携事業、
苦情等への対応）

4. 課題認識と下半期見通し

- ① 法人
- ② 水道用水供給事業
- ③ 工業用水道事業
- ④ 流域下水道事業

5. その他・事業トピックス

- ① 熊出没への対応・対策
- ② 任意事業

令和7年度上半期の概況

経営環境

- ・ 異常気象（高温と日照り）による少雨と水質変動
- ・ インフレ（特にエネルギー価格）の継続
- ・ W-PPP先進事例として社会的注目度が高い

対応方針

- ・ 「事業継続」を最優先に異常気象や災害に向き合う
- ・ 維持管理や改築工事の改善でインフレに対応する
- ・ 丁寧かつ正確な情報発信に努める

上半期 結果

- ・ MMMの経営成績は概ね計画通りに推移
- ・ MSMは異常気象等の影響があったが、計画通りで推移
- ・ Lv3の要求水準違反は無く、維持管理業務は安定

下半期 の課題

- ・ 引き続き、安定的な事業運営の継続
- ・ 「地域貢献」と「情報発信」の改善
- ・ 関係市町との連携深化（MDPの展開＋PPP）

1. 維持管理業務

年間計画との差異（上半期終了時の進捗）

- ・ 概ね計画通りに業務遂行し、
水質の要求水準違反につながる事故は発生しなかった

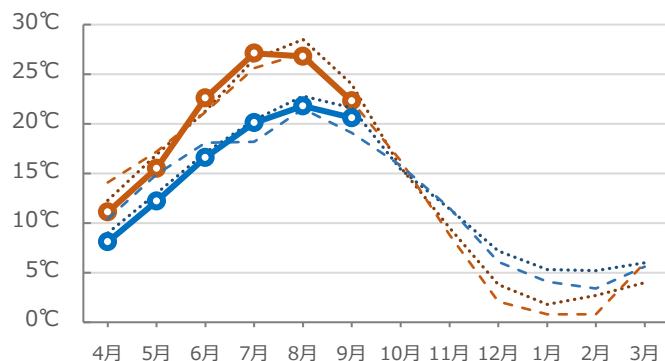
1. 維持管理業務 ① 運転管理・水質管理（上水）

上水

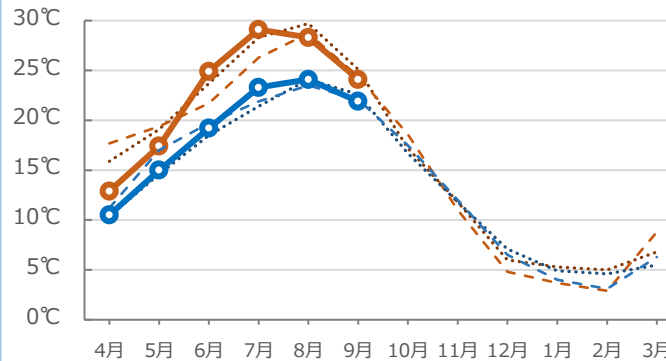
水温・原水水質：高水温等による水質影響が継続

麓山浄水場

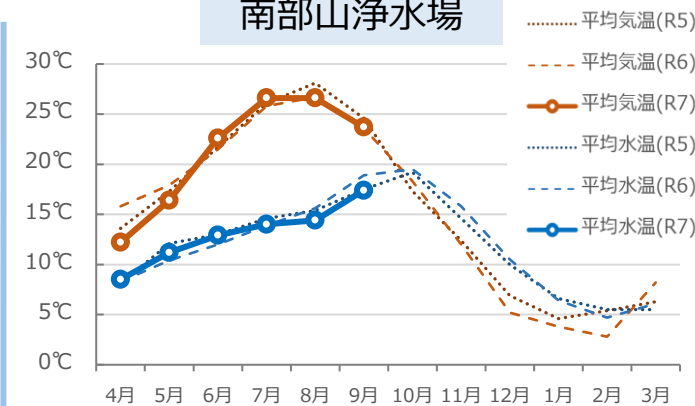
気温・水温 (送水)



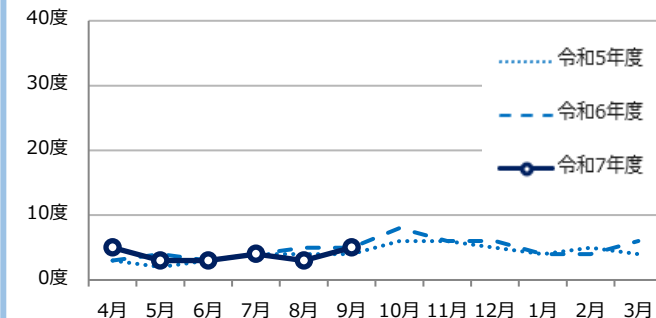
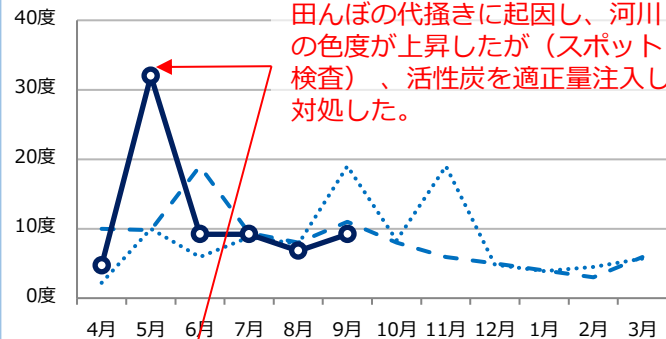
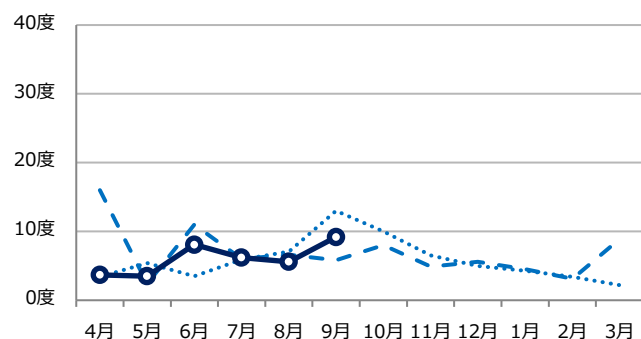
中峰浄水場



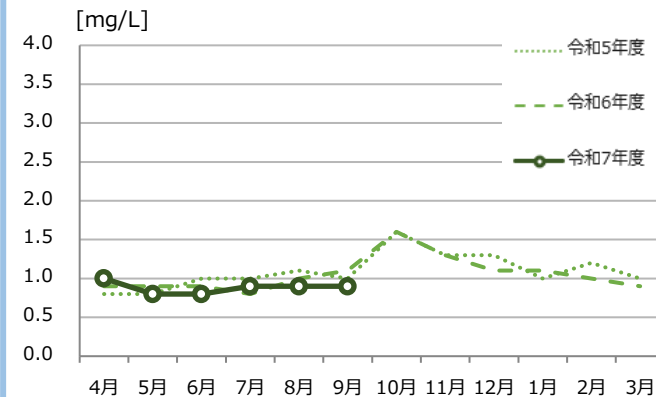
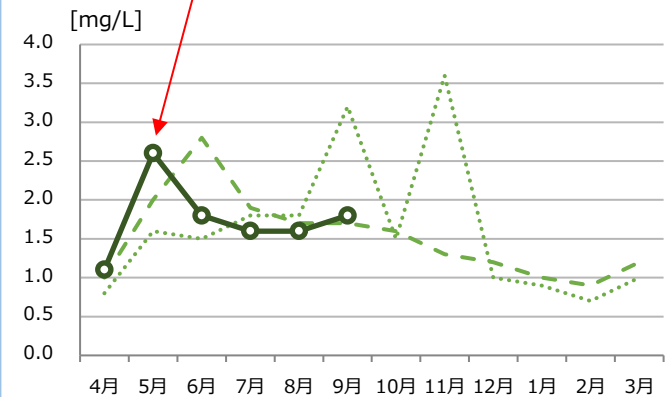
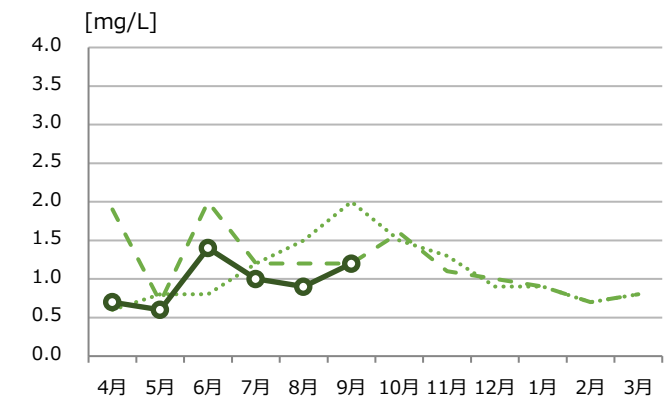
南部山浄水場



色度 (原水)



TOC (原水)

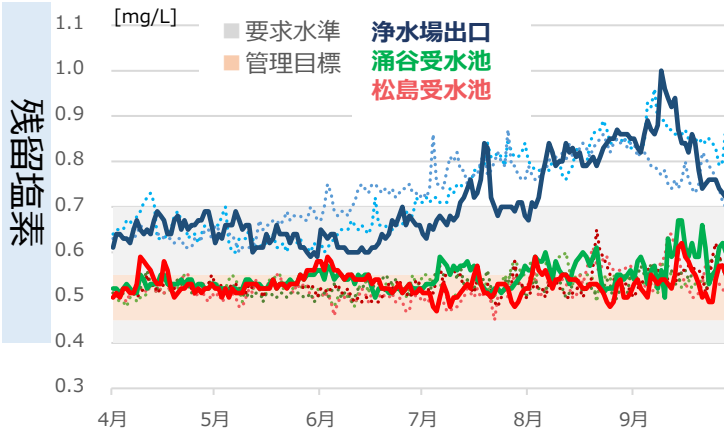
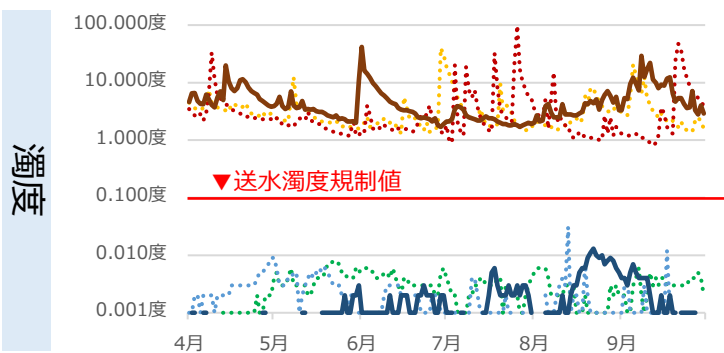
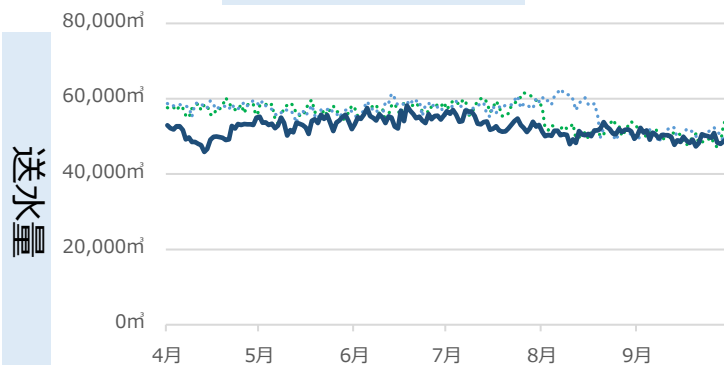


1. 維持管理業務 ① 運転管理・水質管理（上水）

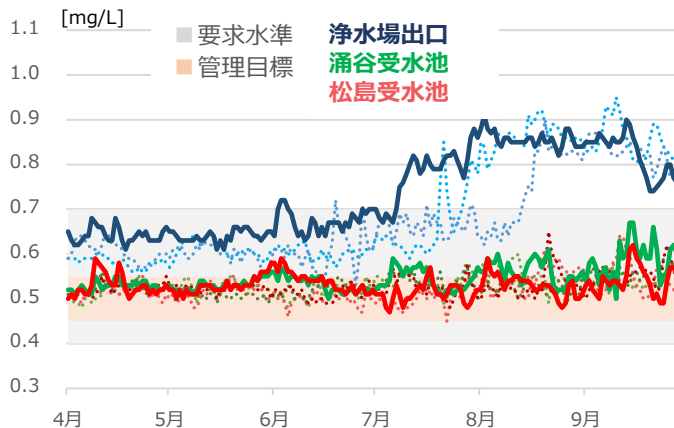
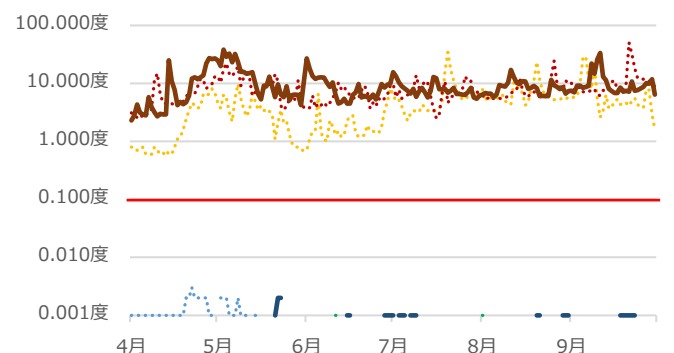
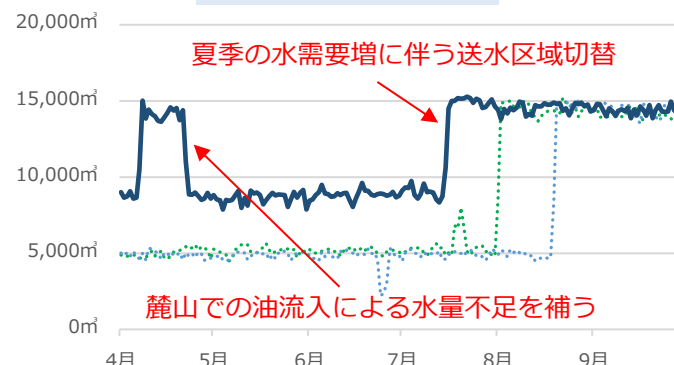
上水

送水量・濁度・残留塩素：かび臭影響等に関わらず安定管理

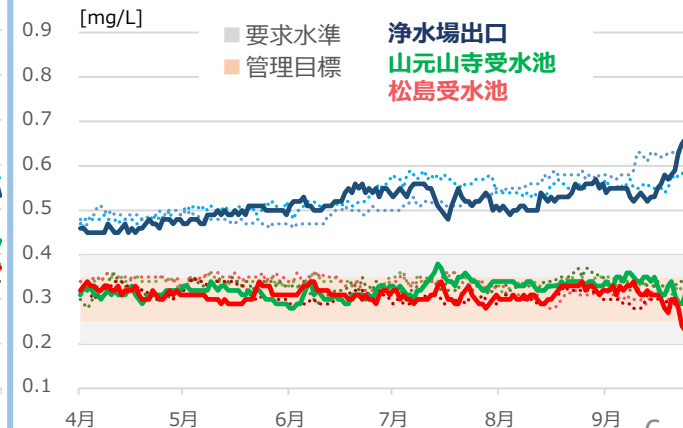
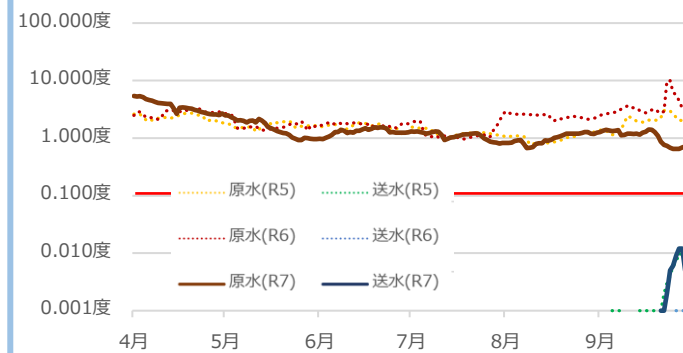
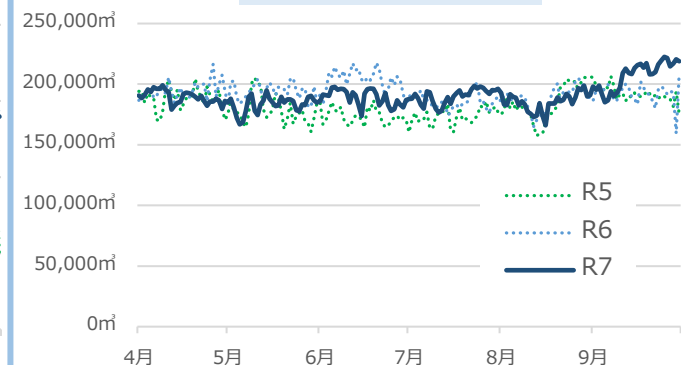
麓山浄水場



中峰浄水場



南部山浄水場



1. 維持管理業務 ① 運転管理・水質管理（下水）

下水 上半期の流入水質：基準値 超過項目は無し

※浄化センター（JC）に流入した、JC入口の水質

は基準値の80%に達した値

	項目	基準	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
			平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大
仙塩JC	BOD(mg/L)	250	180	210	170	190	160	180	170	220	160	170	130	150
	COD(mg/L)	150	110	130	110	120	100	120	110	130	100	110	87.7	100
	SS(mg/L)	290	160	200	160	190	150	160	160	190	170	190	140	160
	T-N(mg/L)	52	35.2	42.3	39.7	40.7	34.7	41.3	39.7	40.1	40.7	44.2	40.7	46.0
	T-P(mg/L)	7.9	3.7	4.5	4.3	4.4	3.8	4.4	4.1	4.1	4.4	4.5	4.2	4.4
県南JC	BOD(mg/L)	240	140	160	140	150	130	160	140	140	130	150	120	150
	COD(mg/L)	150	81.4	95.1	83.9	85.1	88.8	98.1	81.9	87.1	74.2	86.9	69.4	84.9
	SS(mg/L)	260	140	150	150	180	130	140	130	140	130	160	120	160
	T-N(mg/L)	48	32.3	35.5	31.7	32.8	31.3	34.8	35.6	35.8	34.8	36.2	35.3	35.6
	T-P(mg/L)	16	3.3	3.6	3.4	3.5	3.2	3.5	3.6	3.7	3.9	4.4	3.7	3.7
鹿島台JC	BOD(mg/L)	350	200	250	170	210	200	240	190	210	180	210	200	270
	COD(mg/L)	180	120	130	110	130	130	150	120	130	110	120	130	150
	SS(mg/L)	340	140	190	140	210	190	260	150	180	140	180	200	250
	T-N(mg/L)	51	38.7	43.3	33.7	36.5	34.3	38.2	32.7	33.0	32.7	40.9	31.6	35.3
	T-P(mg/L)	5.7	4.1	4.5	3.2	3.7	3.3	4.0	4.2	4.3	3.6	4.0	3.5	3.8
大和JC	BOD(mg/L)	280	200	230	210	230	210	220	200	210	180	200	180	200
	COD(mg/L)	180	130	140	130	160	130	140	120	130	120	130	120	130
	SS(mg/L)	290	200	220	210	250	220	230	200	210	180	220	180	190
	T-N(mg/L)	53	37.3	37.4	42.7	47.8	40.2	40.8	35.8	35.9	35.4	38.1	34.9	39.4
	T-P(mg/L)	6.7	4.0	4.3	5.2	6.6	3.7	3.8	4.0	4.2	3.6	3.8	3.8	4.4

1. 維持管理業務 ① 運転管理・水質管理（下水）

下水 上半期の放流水質：基準値 超過項目は無し

※浄化センター（JC）で処理された、JC出口の水質

は基準値の80%に達した値

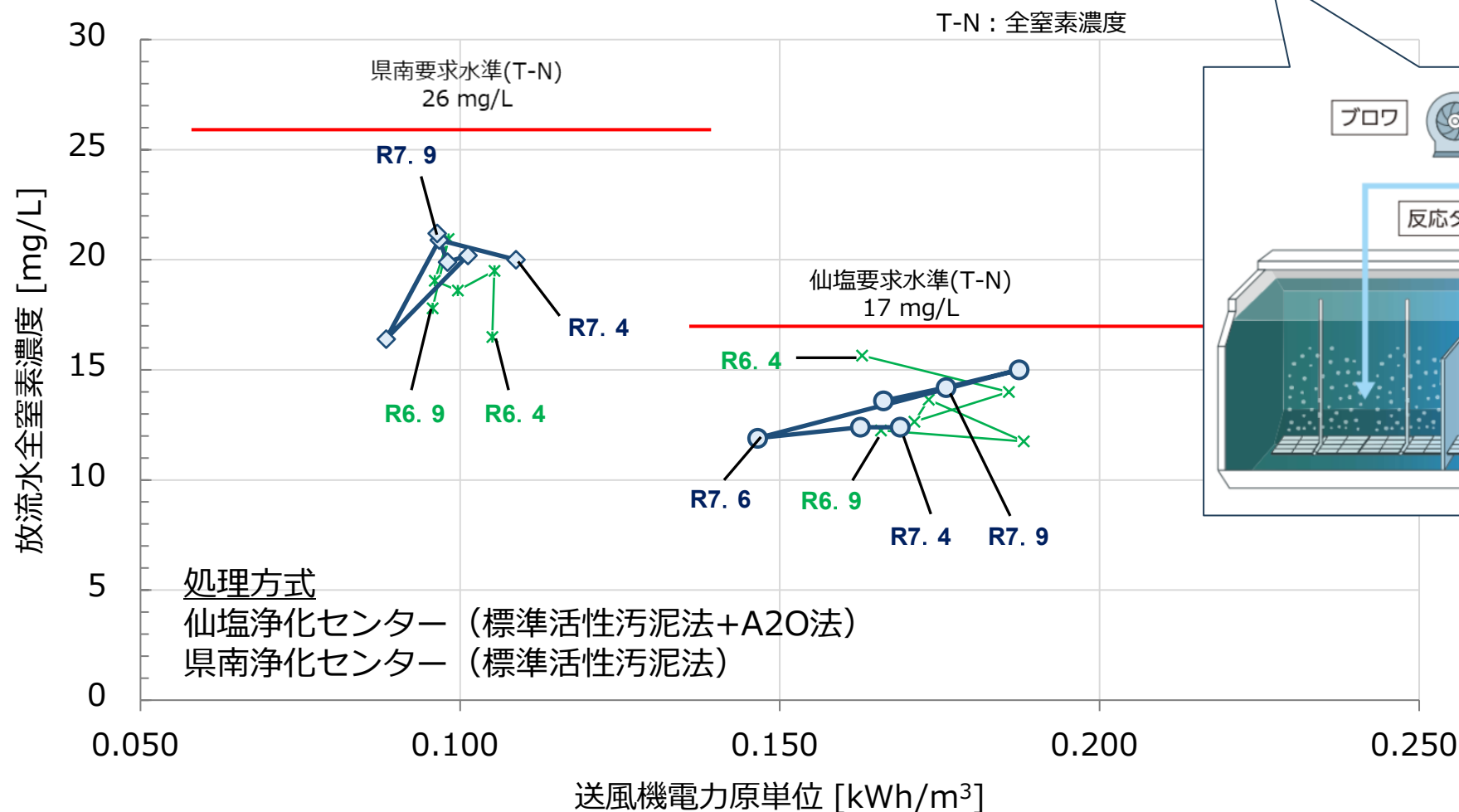
	項目	県基準	平均						法定基準	最大					
			4月	5月	6月	7月	8月	9月		4月	5月	6月	7月	8月	9月
仙塩JC	BOD(mg/L)	3以下	2.6	2.3	2.1	2.0	2.0	1.7	10 以下	4.0	2.7	2.4	2.4	2.7	2.8
	COD(mg/L)	12以下	10.6	10.2	10.1	11.0	10.5	9.8	-	11.7	11.3	11.6	11.7	11.2	11.1
	SS(mg/L)	3以下	2.6	2.3	2.4	2.0	2.2	2.1	40 以下	4.6	3.2	3.0	3.0	3.0	3.0
	T-N(mg/L)	17以下	12.4	12.4	11.9	15.0	14.2	13.6	120 以下	15.4	12.8	15.0	15.6	15.8	15.0
	T-P(mg/L)	3以下	1.4	1.8	1.7	1.5	0.9	0.7	16 以下	1.5	1.9	2.4	1.6	0.9	0.8
県南JC	BOD(mg/L)	5以下	3.6	3.0	2.2	3.0	2.5	2.6	15以下	3.9	3.8	2.8	4.5	2.6	3.7
	COD(mg/L)	15以下	10.3	9.7	8.8	9.5	9.1	9.1	160以下	11.4	10.7	9.5	10.2	9.7	9.9
	SS(mg/L)	4以下	2.3	1.8	1.6	1.6	1.7	1.9	40以下	3.4	3.1	2.4	1.9	2.5	3.3
	T-N(mg/L)	26以下	20.0	20.9	16.4	20.2	19.9	21.2	-	21.1	21.9	17.3	21.0	20.6	22.4
	T-P(mg/L)	2以下	1.0	0.9	1.2	0.9	0.7	0.8	-	1.2	1.0	1.6	1.3	0.8	1.2
鹿島台JC	BOD(mg/L)	3以下	2.1	1.5	1.8	1.4	1.7	1.4	15以下	2.2	1.7	2.2	1.7	2.9	1.8
	COD(mg/L)	10以下	8.8	7.9	7.8	7.6	7.4	7.7	-	9.6	8.6	8.2	8.1	7.9	8.2
	SS(mg/L)	3以下	2.4	1.9	1.8	<1.0	<1.0	1.1	40以下	2.9	2.6	2.3	1.6	1.4	1.8
	T-N(mg/L)	3以下	1.8	1.7	1.7	1.6	1.3	1.4	-	1.8	1.8	1.8	1.6	1.3	1.5
	T-P(mg/L)	2以下	1.7	1.6	1.3	1.6	1.5	1.6	-	1.7	1.7	1.4	1.9	1.9	1.7
大和JC	BOD(mg/L)	4以下	2.4	2.4	2.1	1.9	1.7	1.4	13以下	2.8	3.7	2.5	2.1	2.2	1.8
	COD(mg/L)	12以下	9.4	8.9	8.6	8.9	8.6	8.1	-	10.2	9.8	9.4	9.4	9.2	8.8
	SS(mg/L)	5以下	2.3	2.4	1.3	<1.0	<1.0	1.2	40以下	3.5	3.8	1.8	1.4	1.7	1.7
	T-N(mg/L)	14以下	8.3	8.7	10.2	10.4	10.4	9.7	-	8.6	9.8	10.8	11.9	10.5	10.2
	T-P(mg/L)	3以下	1.8	1.7	1.6	1.8	2.1	1.5	-	2.1	1.7	1.9	1.9	2.2	2.3

※ 法定基準は「常に満足」しなければならず、県基準は「平均」を満足することが判定基準（要求水準書 別紙3-5-2）

下水 二軸管理手法による分析

基本方針：**放流水質の維持を最優先に、送風機電力原単位を削減する**

- ・送風機電力原単位は、昨年度と同程度に推移した。
- ・工事による水量変動を抑え、安定した水処理（送風量）により消費電力を抑えた。

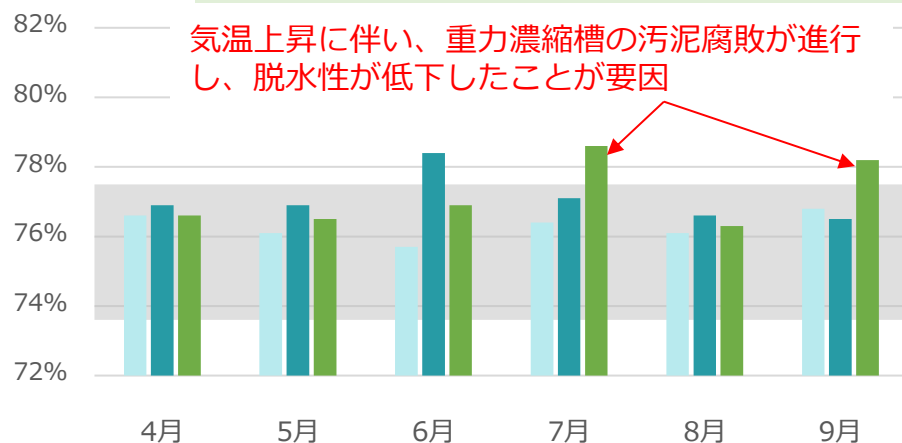


1. 維持管理業務 ① 運転管理・水質管理（下水）

下水 上半期の汚泥処理：産廃として搬出した汚泥は、搬出先にて全てリサイクル

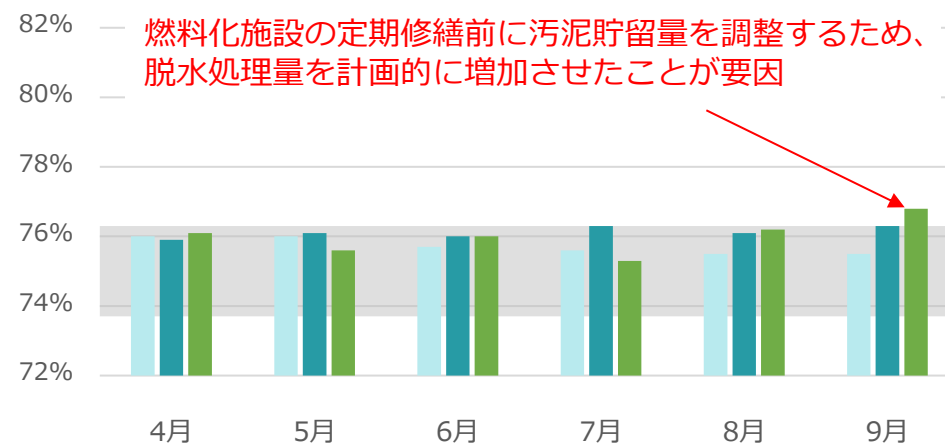
仙塩 J C

汚泥処理量：16,505t
14,037t（焼却）+ 2,378t（中間処理）



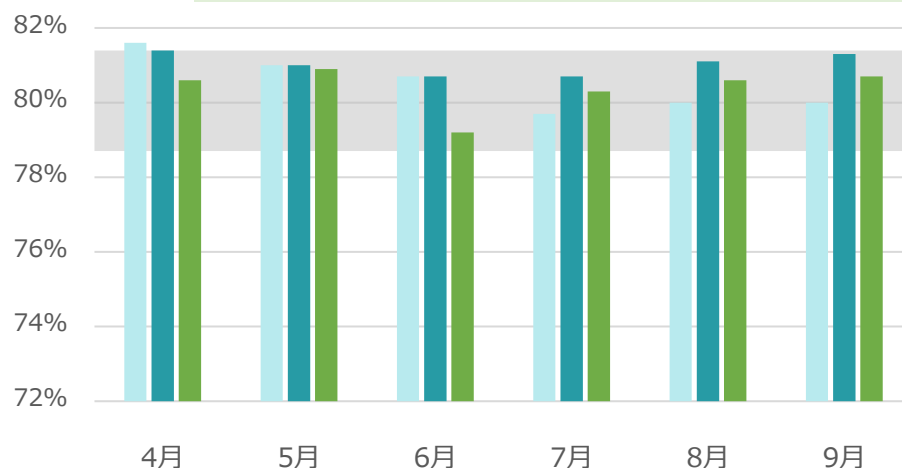
県南 J C

汚泥処理量：8,186t
7,467t（燃料化）+ 256t（仙塩JCへ）+ 463t（中間処理）



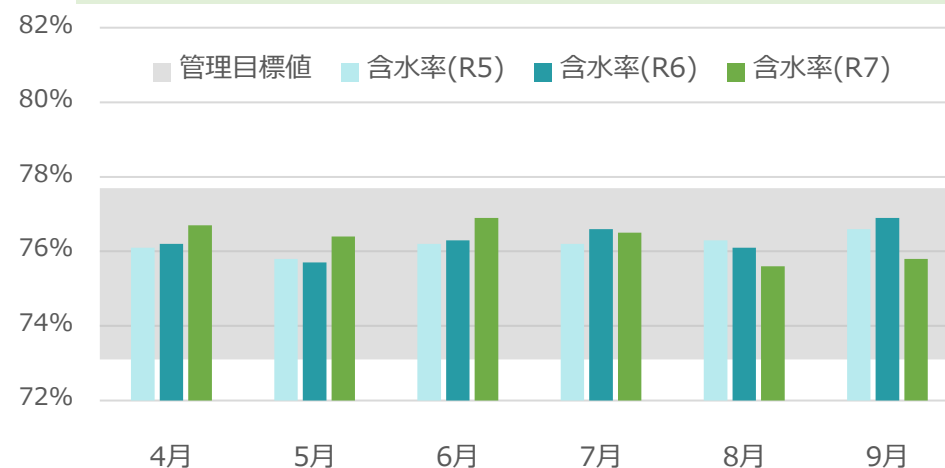
鹿島台 J C

汚泥処理量：807t
628t（仙塩JCへ）+ 172t（中間処理）



大和 J C

汚泥処理量：3,708t
2,933t（仙塩JCへ）+ 787t（中間処理）



※令和6年4月に改訂した脱水ケーキ含水率の管理目標値を示す

1. 維持管理業務 ②主なトラブルと対応

4月 県南浄化センターの中央監視設備不具合に伴う排水量報告値のズレ（阿武隈川）

- ・ 事象：システムの時計にズレがあり、月間の排水量報告値が正確ではなかった。
- ・ 対処：排水量は、日間積算値の月合計を採用する。

6/18 麓山浄水場における工事中に発生した労働災害（大崎水道）

- ・ 事象：ケーブル被覆剥離作業中に手元が滑り、手首を切創（約 2cm）。
- ・ 対処：専用工具（ケーブルストリッパー）の使用を徹底した。

6/25 大槻浄水場における工事中に発生した労働災害（仙塩工水）

- ・ 事象：カッターナイフを使用した切断作業中に、指を切創（約 2cm）。
- ・ 対処：原則としてカッターナイフの使用を禁止とした。



切創



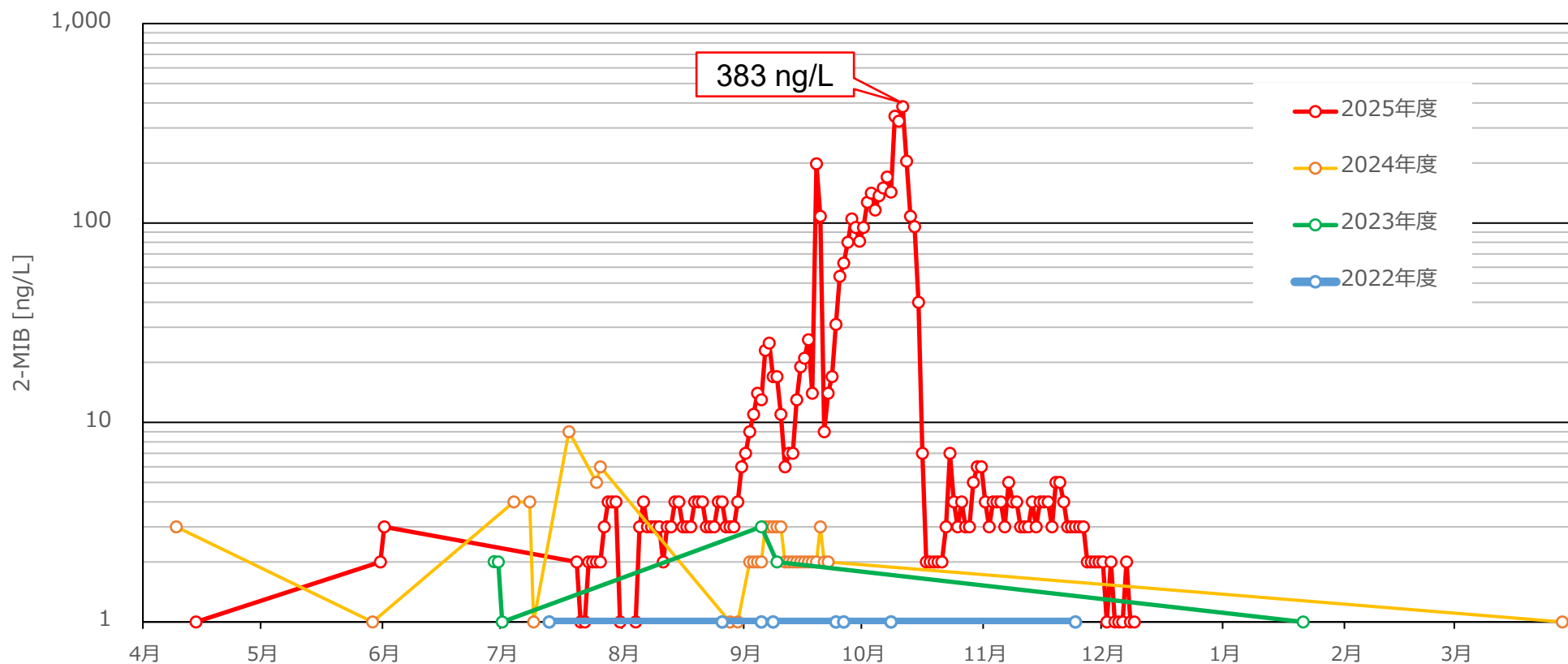
1. 維持管理業務 ②主なトラブルと対応

9/19～12/9 麓山浄水場におけるかび臭対応（大崎水道）

（1）事象 原水水質の変動（かび臭物質の上昇）

- ① 猛暑や少雨等の影響で、水源である漆沢ダムの水質が大きく変化し、浄水場の着水（入口）でかび臭成分（2-MIB）を検出し、直ちに活性炭注入率を増加し対処した。

⇒ **2-MIB濃度は、最大 383 ng/L まで上昇**（過年度は 10 ng/L 以下で推移）



着水における2-MIB濃度の推移

1. 維持管理業務 ②主なトラブルと対応

9/19～12/9 麓山浄水場におけるかび臭対応（大崎水道）

（2）対処（9月19日～12月9日）

- ・過去に例のない水質変動であったため、災害対策本部を設置した。
- ・設備能力最大となる9 t /日の活性炭注入を実施し、株主企業の協力のもと全国より活性炭を取り寄せ必要量を確保した。
- ・週7日（24時間体制）の水質分析に対応するため、みずむすび他事業所および株主企業より応援人員を派遣し、体制を強化した。
- ・10/22 水質変動が収束傾向となったため、災害対策本部を解散。
- ・12/9 漆沢ダムのかび臭成分が徐々に減少したため、活性炭注入を停止した。

（3）今後の課題

①設備上の課題

- ・活性炭注入設備の能力増強検討
- ・活性炭保管場所の確保

②作業場の課題

- ・中央監視では操作できず、現場盤対応による活性炭注入業務の負担軽減
- ・スラリー溶解作業の効率化

2. 改築業務

年間計画との差異（上半期終了時の進捗）

- ・ 概ね順調に推移。
- ・ 改築計画に基づき改築を実施し、上半期竣工予定14件のうち、10件が竣工。
- ・ 残り4件も麓山かび臭問題に関連し工期延長した1件以外は12月までに竣工。

令和7年度上半期：計画14件中「10件」完工

- ・ 県南浄化センター：消化槽の攪拌機を低動力型に更新
- ・ 麓山浄水場、中峰浄水場：混和池に低動力型フラッシュミキサーなどを導入
- ・ 南部山浄水場：主プロセスのフロック形成池／沈澱池（3系）などを更新

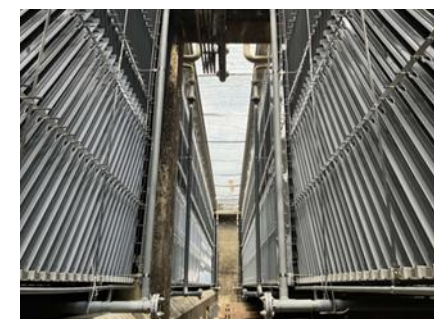
事業名	主な工事名
阿武隈川下流流域 下水道事業	県南浄化センター沈砂池・消化設備改築工事
	県南浄化センター管理棟特殊電源設備改築工事
仙塩・仙台圏 工業用水道事業	大槻浄水場ほかITV設備更新工事
大崎広域水道事業	麓山・中峰浄水場及び場外管理施設監視制御設備更新工事
	麓山浄水場ほか沈澱池設備更新工事
仙南・仙塩 広域水道事業	南部山浄水場ほか計装設備および場外受水流量計更新工事
	南部山浄水場No.3フロック形成池機械設備更新工事
	南部山浄水場No.3沈殿池・ろ過池機械設備更新工事
	角田江尻テレメータ室受水池流量制御弁設備更新工事
	南部山浄水場濃縮槽機械設備更新工事



県南消化槽攪拌機



麓山フラッシュミキサ



南部山No.3沈殿池傾斜板

令和7年度上半期：上工水事業は設計6件、工事7件発注

	事業名	発注金額 (千円・税抜)	主な発注先
設計	大崎広域水道用水供給事業及び 仙台北部工業用水道事業	44,700	日水コン 復建技術コンサルタント
	仙南・仙塩広域水道用水供給事業	74,600	日水コン 復建技術コンサルタント
	仙塩工業用水道事業 及び仙台圏工業用水道事業	20,500	日水コン 復建技術コンサルタント
	合計	139,800	
改築 工事	大崎広域水道用水供給事業及び 仙台北部工業用水道事業	418,700	前澤エンジ、美和電気、メタ ウォーター
	仙南・仙塩広域水道用水供給事業	967,180	メタウォーター、東洋電機ES
	仙塩工業用水道事業 及び仙台圏工業用水道事業	44,000	美和電気
	合計	1,429,880	

※赤字は県内企業

令和7年度上半期：下水事業は設計3件、工事6件発注

	事業名	発注金額 (千円・税抜)	主な発注先
設計	仙塩流域下水道事業	17,600	東京設計事務所 復建技術コンサルタント
	阿武隈川下流流域下水道事業	—	
	鳴瀬川流域下水道事業	3,450	東洋電設ES
	吉田川流域下水道事業	—	
	合計	21,050	
改築 工事	仙塩流域下水道事業	663,500	南東北クボタ、メタウォーター
	阿武隈川下流流域下水道事業	154,000	住友重機械インバロメント、産電工業
	鳴瀬川流域下水道事業	—	
	吉田川流域下水道事業	208,600	アイ・ケー・エス、産電工業
	合計	1,026,100	

※赤字は県内企業

3. 経営管理業務

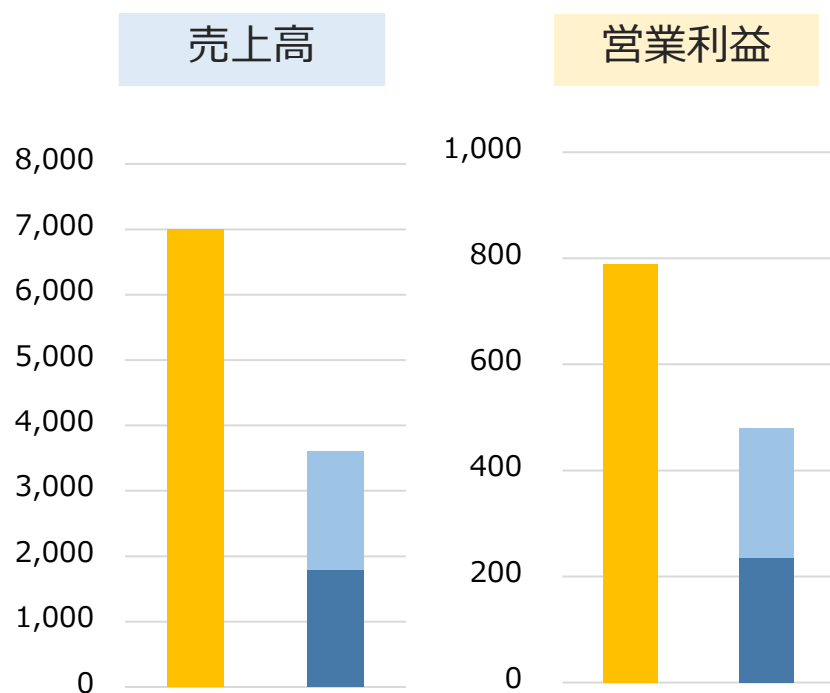
年間計画との差異（上半期終了時の進捗）

- ・ 売上高の進捗は概ね年間計画通り
- ・ 営業利益は業務の効率化によって年間計画を上回り、
通期目標は十分に達成可能

営業利益：年間計画の61%に到達

- ・売上高は、夏季の水道供給水量増加と少雨による下水処理水量減、物価変動の臨時改定等による影響があったが、概ね年間計画通りであった。
- ・営業利益は、業務の標準化や効率化によって年間計画を上回った。現在の進捗とコスト管理状況から通期の目標は十分に達成可能と見込んでいる。

単位：百万円



単位：百万円

■ 年間計画 ■ 第1四半期 ■ 第2四半期

財務数値 (損益計算書系)	年間 計画①	上半期 実績②	②/①	前年同期 実績③	前年比 ②-③
売上高	6,991	3,607	52%	3,471	136
売上総利益	1,058	591	56%	696	▲105
(売上高総利益率)	15.1%	16.4%	—	20.1%	—
営業利益	790	480	61%	576	▲96
(売上高営業利益率)	11.3%	13.3%	—	16.6%	—
経常利益	640	395	62%	520	▲125
(売上高経常利益率)	9.2%	11.0%	—	15.0%	—
当期純利益	443	274	62%	360	▲86
(売上高純利益率)	6.3%	7.6%	—	10.4%	—

3. 経営管理業務 ①財務報告（法人）

単位：百万円

財務数値（貸借対照表系）	前年期末 ①	第 1 四半期末	第2四半期末 ②	前年比 ②-①
現預金残高（28億円以上）	8,017	7,408	7,475	▲542
純資産合計	5,821	5,954	6,170	349
有利子負債残高	10,200	10,200	10,200	0
負債合計	11,852	11,018	11,278	▲574
総資産合計	17,674	16,972	17,448	▲226

単位：百万円

財務指標	前年期末	第 1 四半期末	第2四半期末
流動比率	665%	1,363%	1,013%
DSCR（ $\geq \times 1.3$ ）	15.3	▲9.0	1.8
有利子負債比率（ $\leq 200\%$ ）※	125%	122%	119%

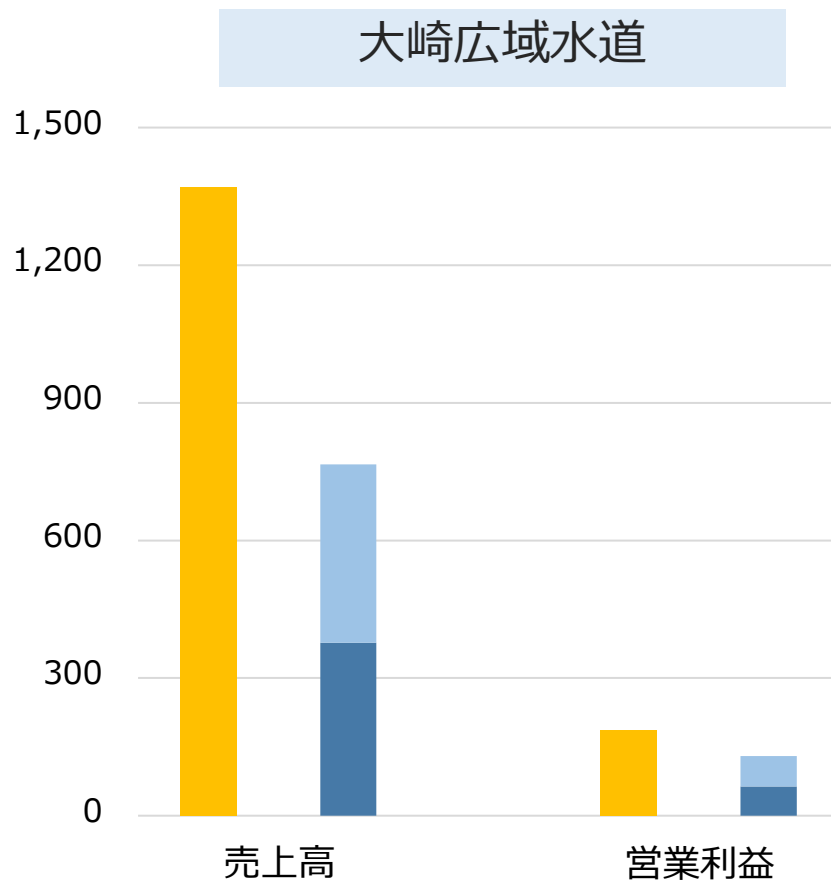
※株主融資である劣後ローンを資本とした場合

3. 経営管理業務 ①財務報告（予実比較：上水）

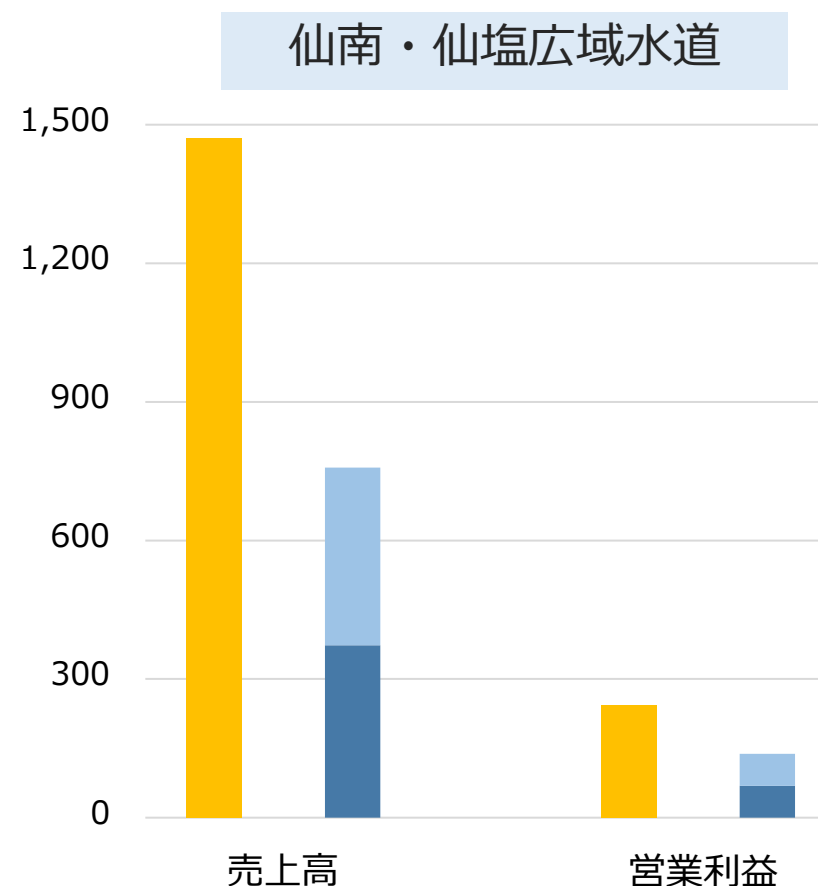
上水 水需要増により供給水量が計画値を上回ったため増収

単位：百万円

■ 年間計画 ■ 第1四半期 ■ 第2四半期



項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③
売上高	1,369	766	56.0%	739	27
営業利益	187	130	69.5%	204	▲74



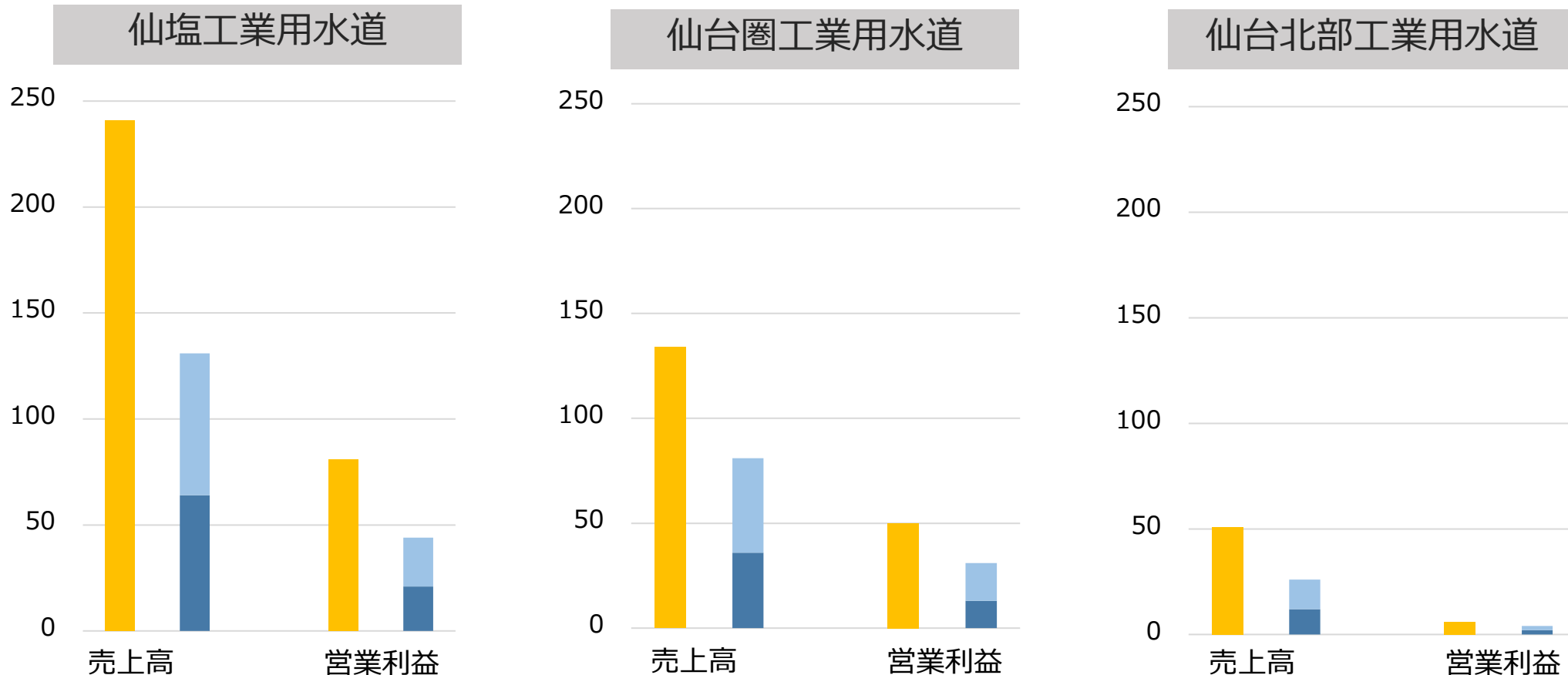
項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③
売上高	1,471	758	51.5%	747	11
営業利益	244	138	56.6%	197	▲59

3. 経営管理業務 ①財務報告（予実比較：工水）

工水 企業の生産活動等に伴う水需要増により、計画比で堅調に推移

単位：百万円

■ 年間計画 ■ 第1四半期 ■ 第2四半期



項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③	項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③	項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③
売上高	241	131	54.4%	123	8	売上高	134	81	60.4%	69	12	売上高	51	26	51.0%	26	0
営業利益	81	44	54.3%	42	2	営業利益	50	31	62.0%	25	6	営業利益	6	4	66.7%	4	0

3. 経営管理業務 ①財務報告（予実比較：下水）【1/2】

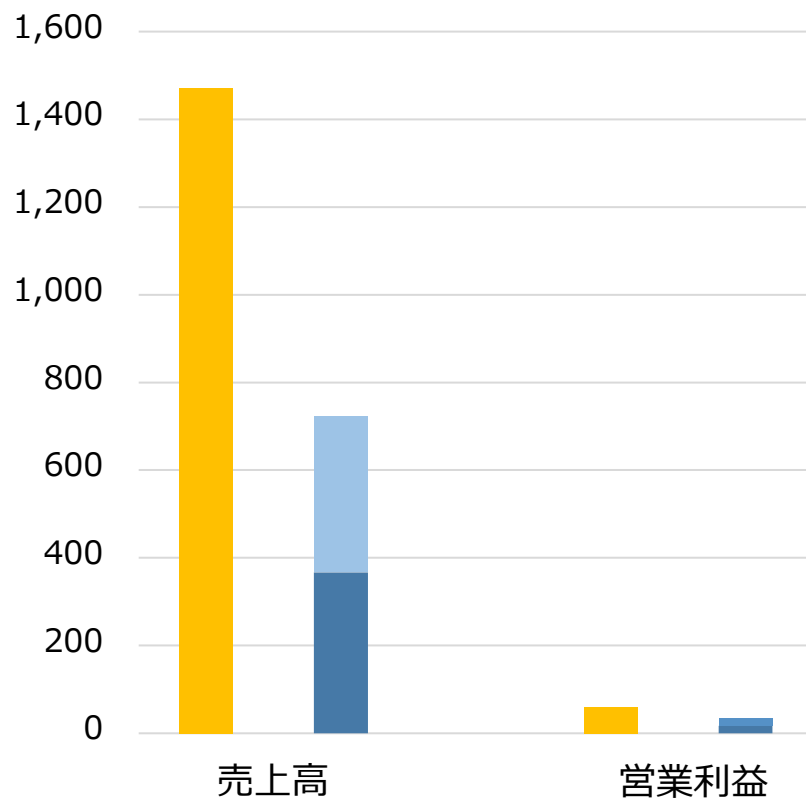
下水

処理水量が低めに推移したため、売上高は計画比で微減

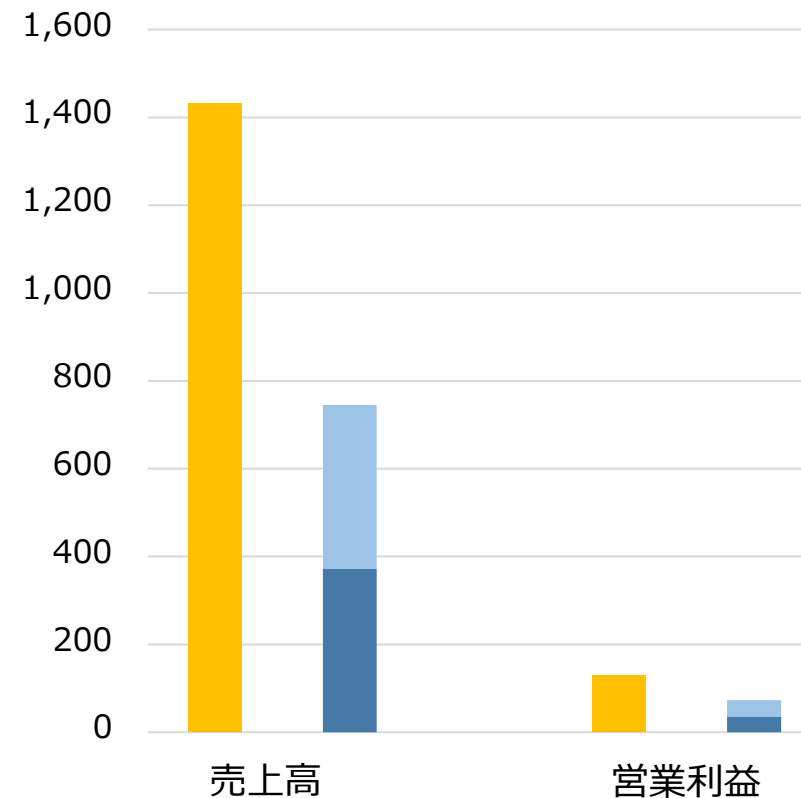
単位：百万円

■ 年間計画 ■ 第1四半期 ■ 第2四半期

仙塩流域下水道



阿武隈川下流流域下水道



項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③
売上高	1,472	722	49.0%	685	37
営業利益	60	33	55.0%	30	3

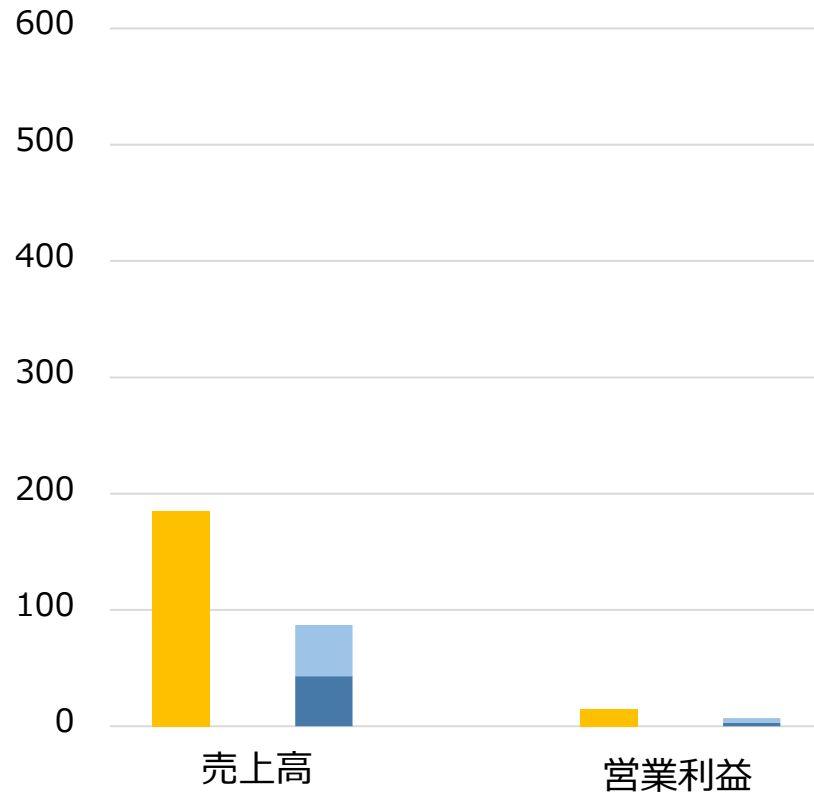
項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③
売上高	1,431	745	52.1%	700	45
営業利益	129	73	56.6%	47	26

3. 経営管理業務 ①財務報告（予実比較：下水）【2/2】

下水

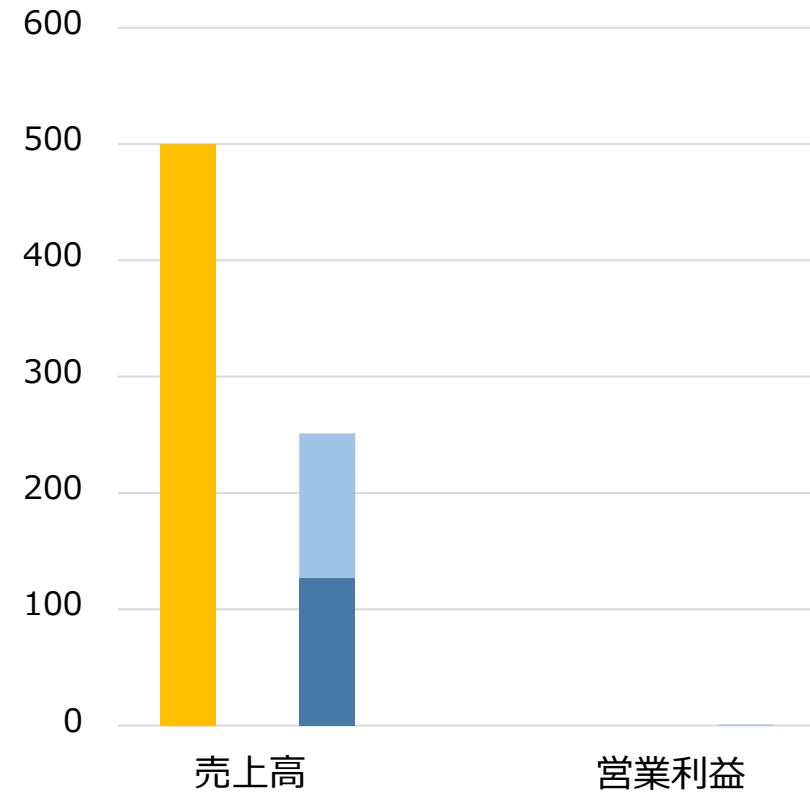
単位：百万円
 ■ 年間計画 ■ 第1四半期 ■ 第2四半期

鳴瀬川流域下水道



項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③
売上高	185	87	47.0%	83	4
営業利益	15	7	46.7%	8	▲1

吉田川流域下水道



項目	年間計画①	上半期実績②	②/①	前年同期実績③	前年比②-③
売上高	500	251	50.2%	237	14
営業利益	0	1	-	4	▲3

株式会社みずむすびサービスみやぎの財務数値

概ね予定通りに進捗している

損益計算書系

単位：百万円

項目	第1四半期	第2四半期	上半期累計①	前年 上半期累計②	前年比 ①-②
売上高	1,332	1,335	2,667	2,553	114
売上総利益	170	67	237	▲ 15	252
営業利益	123	25	148	▲ 98	246
(売上高営業利益率)	9.2%	1.8%	5.5%	▲ 3.8%	9.3%
経常利益	120	22	142	▲ 96	238
税金等調整前純利益	120	23	143	▲ 96	239
純損益	119	22	141	▲ 96	237

貸借対照表系

単位：百万円

項目	前年度末①	第1四半期末	第2四半期末②	②-①
現預金残高	523	417	592	69
純資産合計	370	325	347	▲ 23
有利子負債残高	0	0	0	0
負債合計	1,512	1,351	1,499	▲ 13
総資産合計	1,883	1,676	1,847	▲ 36

県や地元企業も招いた講習会・技術教育を実施



次世代を担う地元企業及び地域人材へノウハウや技術を継承するために「みずむすびアカデミー」創設し、当社関連企業だけでなく“水”に関わる地元企業や県職員、県内市町村職員を対象として実施。

(1) ヒューマンエラー対策研修

- ・ ヒューマンエラーの原因や発生防止などに関する知識を習得する。
- ・ 実施日：4月12日、4月19日、5月10日、5月24日
- ・ 対象者：従業員（未受講者、現場担当者）、県職員
※管理者（R5年度）、中堅者（R6年度）、担当者（R7年度）



ヒューマンエラー対策研修

(2) 安全教育

- ・ 安全に対する感受性を高めるとともに、安全を確保した業務の遂行を目的に特別教育を実施。
 - (a) フルハーネス型墜落制止用器具特別教育
 - (b) 酸素欠乏危険作業特別教育
- ・ 対象者：従業員、県職員、地元企業



フルハーネス型墜落制止用器具特別教育

県や地元企業も招いた講習会・技術教育を実施

(3) 講習会・技術教育（実施した主な取り組み）

①移動電源車接続に関する実地訓練（4月）

- ・ 停電や設備故障などの緊急時に、移動電源車を施設の非常用電源接続口に接続し、電力供給する訓練。
- ・ 対象者：従業員、県職員、関連企業



移動電源車接続に関する実地訓練

②電気の基礎と受変電設備の保守・運用に関する教育（5月）

- ・ 水処理施設における電気設備の基本的な知識と受変電設備に関する教育。トラブル発生時に早期復旧を目指す。
- ・ 対象者：従業員、県職員、関連企業



電気の基礎と受変電設備に関する教育

③幹線流量計に関する教育（9月）

- ・ 日常保守や点検方法の習得により、不具合発生時の原因特定が早まり、復旧期間の短縮を目指す。
- ・ 対象者：従業員、県職員、関連企業、地元企業



幹線流量計に関する教育

県や市を招いた共同訓練を実施



④給水訓練に関する実践訓練（9月）

- ・災害時の緊急給水体制確保を目的とした実践訓練。
- ・給水車の操作、水質検査、緊急給水装置の接続等の実技教育。
- ・対象者：従業員、県職員、白石市



保守点検業務等を外部委託せず自社（内製化）で対応できるように、従業員の技術力向上に努め、平常時や緊急時に迅速に対応できる体制の構築を目指す。

3. 経営管理業務 ③広報活動（イベント等）

（1）みずむすびフェス（下水道まつり）

- ・ 9/13 in 仙塩浄化センター 参加者：約700人※（関係者含む）
- ・ 9/27 in 県南浄化センター 参加者：約1,000人（関係者含む）

※仙塩では大雨にもかかわらず多数の来場者あり



みずフェス（場内見学ツアー）

（2）水の教育プログラム

①みやぎ教育応援団マッチング会議

6/5 大河原合同庁舎

学校及び市町村教育行政関係者に対し、当社が実施している施設見学、出前授業、自由研究バスツアー等について紹介



みやぎ教育応援団

②出前授業

6/20 岩沼市内の小学校4年生を対象に実施



出前授業

③自由研究バスツアー

7/31 七ヶ宿ダム・南部山浄水場

参加者：47人（小学生を対象に保護者含む）



バスツアー（ダム見学時）

その他広報・ボランティア活動等

（１）広報誌

- ・『水結便（みずむすびん）』Vol.7（6月刊行）
麓山浄水場の1日に密着し、仕事ぶりを特集



広報誌 Vol.7

（２）下水道の日パネル展（9/8～9/12 宮城県庁にて）

- ・宮城県の広報活動への協力として実施



9/8～9/12 下水道の日パネル展

（３）メディア掲載

- ・5/28 河北新報、9/4水道産業新聞等で取り上げ

（４）清掃ボランティア活動

- ・施設近隣及び多賀城みずむすび公園にて清掃を実施
(延べ25回)

**当事業をより深く理解してもらうため、今後も
広報活動や情報発信に力を入れて取り組んでいく。**



9/6 清掃ボランティア

令和7年度上半期の見学者受け入れ状況

単位：人

	事業名	昨年 同期①	上半期 ②	②-①
上水	大崎広域水道用水供給事業	657	600	▲57
	仙南・仙塩広域水道用水供給事業	408	417	+9
工水	仙塩工業用水道事業	61	50	▲11
	仙台圏工業用水道事業	0	0	±0
	仙台北部工業用水道事業	0	0	±0
下水	仙塩流域下水道事業	51	238	+187
	阿武隈川下流流域下水道事業	94	134	+40
	鳴瀬川流域下水道事業	7	0	▲7
	吉田川流域下水道事業	68	35	▲33
	合計	1,346	1,474	+128



対応件数（団体数）
46件

- ・ 令和7年度上半期は見学者が前年比と同等で、全ての希望者を受け入れた。
- ・ 受入れ団体数 46（昨年度より4団体減） ※受入れ団体の約63%が近隣小学校の社会科見学

（１）ウォーターPPPを背景に、県内市町村から連携の相談

連携の可能性に関する相談を個別に検討中。

（県との実施契約に基づき、義務事業に影響を与えない範囲で対応）

（２）地域住民の方からの問い合わせ２件：対応済み

① 樹木の枝の越境に関して

施設名	仙塩流域下水道 仙塩浄化センター
受付日	4月18日（金）
内 容	地域住民より隣接する西園寺大代墓地へ樹木の枝が越境しているとの苦情
対 応	速やかに枝の剪定・伐採を実施し、8月にも再確認・剪定・伐採を実施した。

② 臭気に関して

施設名	仙塩流域下水道 仙塩浄化センター
受付日	7月23日（水）
内 容	地域住民より臭気についての問い合わせ
対 応	翌日から、臭気測定を実施したが異常はなく、その結果を中南部下水道事務所に報告した。

4. 課題認識と下半期見通し

法人

課題認識	下半期の見通し
<p>① エネルギーコストの最適化と再エネ導入の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安価な電力調達先への変更と、太陽光発電（仙塩）が稼働し、電力費の削減効果を確認した。 浄化センターにて各種電力使用量の削減を継続し、県南で太陽光発電稼働に向け準備する。【継続課題】
<p>② 世界的な部品供給不足リスクへの計画的対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長納期品を含む工事については、余裕を持った工期設定により、不測の工期延長が発生しないように配慮する。【完了】
<p>③ 重要インフラにおける情報セキュリティの強靱化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政府の行動計画および指針に基づき、3部構成（構築編、通常運用編、インシデント対応編）の対応マニュアルを令和7年度内に整備し、組織的な対応力を強化する。【継続課題】

課題認識	下半期の見通し
④ 設備更新におけるメーカー固有仕様への対応と競争性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 改築完了まで既設中央監視装置の延命化を図り、不具合が発生した際には、関係企業と適宜情報共有を行い、不具合の早期解消を図る。 老朽化が著しかった仙塩の改築工事は、令和7年度中に完了する予定。【継続課題】
⑤ 小水力発電の運営体制に対してモニタリングで指摘を受ける。残り1か所に着手。	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制と計画書を改め、より安定した発電と電力供給を目指す。残り1か所は、令和8年度中に発電できるように計画を進める。【継続課題】
⑥ 太陽光発電（仙塩）発電良好、2か所目に着手	<ul style="list-style-type: none"> 県南浄化センターにて令和8年5月の発電開始を目標に工事と融資を進める。【継続課題】
⑦ 浄水発生土有効利用のプラント建設完了。令和8年度に稼働予定。	<ul style="list-style-type: none"> かび臭対策で多量の活性炭が使用されたため、浄水発生土の色が黒くなり、グラウンド用土壌改良材としての品質基準外となった。 降雪で屋外乾燥スペース等が使用できないため、令和8年度の稼働に向け準備する。【継続課題】

課題認識	下半期の見通し
⑧ ウォーターPPP等を背景に、県内市町村から連携の相談への対応	<ul style="list-style-type: none"> 実施契約に基づいた対応を基本とし、義務事業への影響を精査しつつ具体的な連携方策の検討。 具体的な案件の検討を進めている。【継続課題】
⑨ 工業用水ユーザーや、上水の受水市町村にMDPを順次リリース	<ul style="list-style-type: none"> 大崎広域水道、仙南仙塩広域水道の関係受水市町村にリリースした。MDPを活用し、大崎では水質事故対応訓練を実施、仙南仙塩でも同様の訓練を計画している。【継続課題】
⑩ 地元企業への発注	<ul style="list-style-type: none"> 新規地元企業の参入機会の創出と、地元企業への発注率を高めるため、地元企業にヒアリングし、入札要件の緩和や、業務範囲の工夫（分割）等の施策を実施し、今後も継続する。【継続課題】

太陽光発電：県南浄化センターにて建設工事に着手

(1) 事業者

- ・株式会社みずむすびサービスみやぎ

(2) 目的

- ・遊休地有効活用し、太陽光発電した電力を場内利用する。

(3) 県南浄化センターの建設スケジュール

- ・令和7年10月 施工開始
- ・令和8年5月 発電開始予定



太陽光発電設備

実施場所	供用開始	発電量	削減効果（計画）
仙塩浄化センター	令和7年4月	2,994 MWh	年間消費電力の約14%
県南浄化センター	令和8年5月予定	2,143 MWh	年間消費電力の約18%

浄水発生土の有価利用：令和8年度に本格始動

(1) 事業者

- ・株式会社みずむすびマネジメントみやぎ

(2) 取り組み

- ・麓山浄水場のかび臭対策のため、多量の活性炭を注入したことにより、浄水発生土の色が黒くなり、グラント用土壌改良材として適さない状態となった。
⇒ **多量の活性炭を含む浄水発生土は、園芸用土等への活用の検討を進めている。**
- ・冬季は降雪で屋外乾燥兼仮置きスペースが使用できない。
※当初計画においても、運転期間は4月～12月と定めている。
⇒ **これらの状況を考慮し、令和8年4月に開始することとした。**
プラントは完成しており、本格始動に向けて準備を進めている。



令和7年7月のプラント完成



浄水発生土を土壌改良材の原料に加工

上水

課題認識	下半期の見通し
① ダム工事排水による水質事故の恐れ	<ul style="list-style-type: none"> ダム工事が長期に亘るため、麓山浄水場では水質事故を想定し、重金属など水質項目に応じた手順書を作成した。また令和8年度の水質管理計画より追加予定。【継続課題】
② 異常気象に起因する原水水質の変動	<ul style="list-style-type: none"> 猛暑や少雨によりかび臭原因物質濃度が過去に例がないほど上昇し、施設能力限界まで活性炭注入し対処した。将来に備え、県と協議し対応手順書等を整備する。【継続課題】
③ 末端受水点における送水残留塩素管理	<ul style="list-style-type: none"> 仙南仙塩広域にて漏水対応で送水ルートを変更した。復旧に伴うルート切替時は、末端受水点の残留塩素濃度の変動に留意し、適切な管理を実施する。【継続課題】
④ 沈殿池工事期間中の供給水量制限	<ul style="list-style-type: none"> 南部山浄水場のNo.4沈殿池がR7年12月～R8年7月まで休止。3/4の沈殿池が稼働しているため平常時は問題ないが、供給能力に制限が生じるため、受水市町村と連携し需要変動に対して計画的に対応する。【継続問題】

工水

課題認識	下半期の見通し
① 流量記録計の消耗品管理と業務効率化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・消耗品管理がなく、検針作業の効率化を目的に、スマートメーター導入に向け2か所に試験設置し検証開始した。従来方式と遜色ない精度を確認しており、導入に向け県との協議を継続する。【継続課題】
② 熊野堂取水場の流量計不具合	<ul style="list-style-type: none"> ・流量計検出部の異常を確認した。秒単位の一時的な超過については、管理基準の適用外であることを県・河川管理者と協議し確認した。【完了】
③ 給水量増加によりポンプ運転台数増加	<ul style="list-style-type: none"> ・仙塩工水の給水停止期間は、熊野堂取水場から給水する。熊野堂の契約電力を大きくし給水ポンプ2台運転が可能となった。停電時、現有発電機では2台運転に必要な電力を満たせず、移動電源車の活用等を検討する。【継続課題】
④ 藻類増加によるユーザーの膜ろ過の閉塞問題（仙台北部）	<ul style="list-style-type: none"> ・濁度低減処理施設の清掃時期を冬から春に変更した効果を確認する。週1回、工水配水出口でプランクトン検鏡を継続し、今後の対処法を検討する。【継続課題】

下水

課題認識	下半期の見通し
① 施設老朽化および市況変動に対応した改築計画の最適化	<ul style="list-style-type: none"> 改築および修繕計画を見直し、アセットマネジメント手法を用いて改築投資の平準化とコスト縮減を図る。下期前半までに最適な計画案を策定する。【継続課題】
② PCB含有機器の調査と処分	<ul style="list-style-type: none"> 高圧盤等に設置されたコンデンサ等、PCB含有の恐れがある機器リストを県と共有した。使用中の当該機器や今後判明する同様機器の取り扱いについて県と協議。令和9年3月までに適正に処理する。【継続課題】
③ 電気室高温化による過熱トラブルの懸念	<ul style="list-style-type: none"> 優先順位を見直し、予算内で効果的な熱対策を実施する。【継続課題】
④ 脱水ケーキ貯留施設建設の住民説明	<ul style="list-style-type: none"> 住民説明会で得た意見を反映し、下期中に詳細設計を完了させ、工事発注を行う。【継続課題】

仙塩浄化センター汚泥焼却炉の修繕期間中に発生する脱水ケーキ産廃処分費の低減策として、センター内に脱水ケーキ貯留施設を建設予定（続報）

（1）住民説明会（令和7年6月末）（既報）

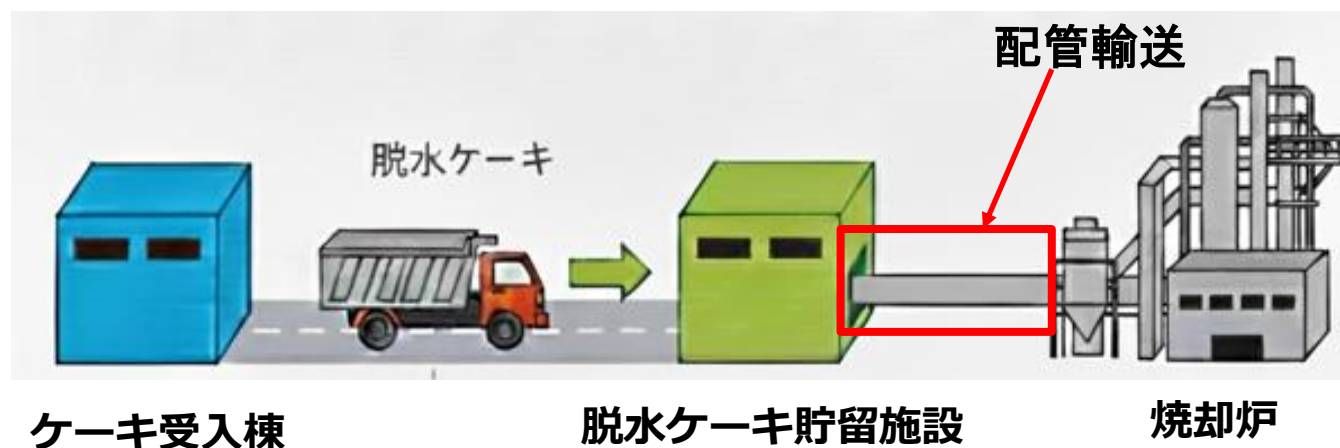
- ・住民説明会を2回開催し、臭気対策等について住民等の方々に説明

（2）追加臭気対策

- ・貯留施設から焼却炉への脱水ケーキ輸送をダンプではなく配管輸送に変更を検討

（3）スケジュール

- ・追加臭気対策等により建屋構造変更のため詳細設計期間を延長（令和8年3月完了）
- ・令和8年2月に長納期品がある機電部分を先行発注
- ・同年4月以降に土木建築部分を発注予定
- ・令和9年9月供用開始予定



施設イメージ



5. その他・事業トピックス

熊出没への対応・対策

(1) 郷六取水場（10月8日）

- ・現場点検時に熊に遭遇し建屋内に避難した。怪我人なし。
- ・中峰、南川、麓山、門沢、松山P場などの熊出没エリアに行く際は、**熊除けスプレー**を携行し安全対策を講じている。

(2) 郷六取水場の見学者対応（10月中旬～11月中旬）

- ・郷六取水場の見学を希望された複数団体に対し、熊目撃情報があつた旨を伝え、見学者の判断に基づき見学を見送った。

※要求水準書「2.9.2 県民等とのコミュニケーションに関する事項」にて見学受入れが出来なかった場合についても県に報告すること。

(3) 七ヶ宿ダム湖畔清掃（10月16日）

- ・県、みずむすび、20市町で行うダム湖畔清掃は、大雨警報と熊目撃情報のため参加者の安全を最優先し開催中止となった。



郷六取水場（獣道が隣接）



七ヶ宿ダム

デマンドレスポンス：事業化に向けた取り組み

（１）事業者

- ・株式会社みずむすびサービスみやぎ

（２）目的

- ・電力会社の要請に応じて場内の電力使用量を減らし、社会全体の電気需要の最適化に取り組む。

（３）取り組み

- ・電力会社の要請に基づき「実効性テスト」を実施している。

【実効性テスト①】 8月25日と9月2日

汚泥焼却炉停止期間中での実施であったため、基準となる電力使用量（ベースライン）の算出方法を見直すなどの対応が求められ、本格運用に向けた貴重な課題が明確になった。

【実効性テスト②】 12月～2月の予定

- ・テストに合格した場合、令和9年度より運用を開始する。

ご清聴ありがとうございました



みずむすび

株式会社みずむすびマネジメントみやぎ